

輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送の促進

○輸出入コンテナ貨物の9割以上がトレーラーにより国内輸送されており、鉄道輸送はわずかにしか行われていない。
 ○このため、学識経験者、物流事業者、荷主企業等からなる「輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送促進に関する調査会」(座長: 矢野流通経済大学流通情報学部教授)を平成26年12月～平成27年3月に3回開催し、鉄道貨物事業者等の関係各者が協力・連携し取り組むべき輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送を促進する具体的方策の方向性について検討を実施し、報告書を取りまとめた。

【輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送の促進に係る課題】

○コスト競争力の確保

鉄道輸送コストのみならず両端のショートドレージコストを要する。

○リードタイムの短縮

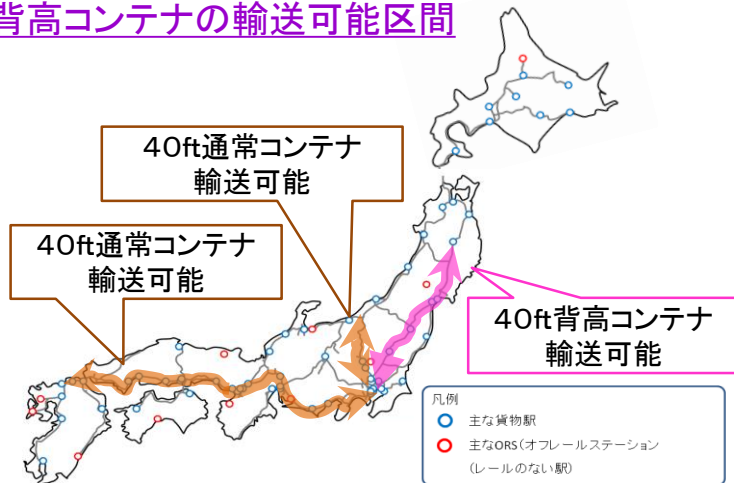
トレーラーとの間の積み替え時間が必要となる。

○40ft背高コンテナ輸送の確保

特に東京～九州間において、トンネルの高さの制限等により40ft背高コンテナ輸送への需要に応えられていない。

等

■背高コンテナの輸送可能区間



【輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送を促進する 具体的方策の方向性】

○ショートドレージの効率化

鉄道駅への入場経路の最適化等による作業の効率化及びオンドックレールの導入検討を行う。

○コンテナラウンドユースの仕組みづくり

内陸部における鉄道貨物駅のコンテナデポ化のための整備・改修の検討を行う。

○40ft背高コンテナに対応した低床車両の検討

40ft背高コンテナの輸送需要が多く見込まれる区間(関東→九州方面)において、低床貨車の優先的な開発・導入を行う。

等

■低床貨車のイメージ

